隔日新聞

縮小体験会開催、２年後の国民縮小法に向けて

2020/9/26 20:00

保存　共有　印刷　その他

1000分の１に縮小された参加者と触れ合う未来の管理官たち。参加者が小さすぎるため、スプーンの上に載せている。

　世界人類縮小条約に伴う国内法『国民縮小法』の２年後の施行を前に、本日、都内某所で縮小体験会が始まった。体験会の日程は本日から９月３０日までの４日間。参加は自由で応募や電話予約は必要ない。先日の国民投票により選ばれたセクシー水着グループも参加の予定だ。彼女らは２年後の法施工後も縮小されず、我々が住む縮小都市を統べる『管理官』となる。参加者はその場で縮小され、1000分の１の大きさに複製された都市に転送される。

　体験会初日となった本日は延べ１０万人の参加者が訪れ、自由に縮小都市を探索した。体験会では各建造物に自由に立ち入りでき、未来の管理官である水着姿のアイドル達とも触れ合える。彼女たちは２年後の縮小法施工に向けて縮小街や縮小複製されたクローン達を使って日々訓練を行っているが、まだ１００分の１サイズでの訓練の段階であり、管理官が管理する1000分の１サイズに縮小された『本物の』人間を見るのは本日が初めてである。彼女らは縮小された参加者を見て「うっそー、ありえないくらい小さいんですけど」「小さすぎてつまむと潰しちゃいそう」「バスつまめたー。うわっ見て見て、小さな人がいっぱい乗ってるよ」「なんかゴミみたいだよね」などと興奮気味に話していた。
　また開催直後、彼女たちは参加者を手に乗せようとしたが、参加者たちは1000倍の高さの指を登ることができず、自前のスプーンに参加者を乗せる場面も見られた。

・その時の状況を、参加者の辻さん(30, 都内在住)はこう語る。
「いやー私、彼女たちのファンなんですけどね、特にカナエちゃん(※写真左下)が私の推しでして、その子が手の上に載せてくれるっていうじゃないですか。普段ならアイドルはお触り禁止ですからねー。こんなチャンス滅多にないと思って周りの皆と一緒に彼女の指に登ろうとしたんですが、なにせ大きすぎて小指すら登れない。ボルダリングでもやっとけばいいと思いましたよ。なんかこう、遠い存在のアイドルが更に遠くなった気がしてガッカリしたんですけどね、なんと彼女たち、普段自分たちが使っているマイスプーンを持ってきて、「これに乗って下さい」って。もう私興奮しましてね、だって彼女たちが使ってるスプーンですよスプーン。我先にと他の人を押しのけてでもスプーンに乗りました。すると我々を乗せたスプーンがぐんぐん上昇して、ビルよりも大きいカナエちゃんの大きな胸が見えたんですね。思えばあのとき飛び降りていればなーって。え、潰されるかもって？本望ですよ本望。それで一気に顔の高さまで運ばれたんですが、こんなに間近でカナエちゃんの顔を見たのは初めてでしたので心臓が飛び出るくらい興奮しましたよ。いや、間近というのはおかしな表現なのですが、握手会とかで近くまで行ったことは何回もあるのですが、あのときは彼女の顔まで１メートルくらいでしたかね。しかし今回は私から見れば本当は何百メートルも離れているはずなのに彼女の顔が視界いっぱいに広がっていたんですよ。そして彼女はニコニコと笑いながら興味津々な様子で我々を目の高さまで持ち上げて大きな瞳で見つめました。あの美しい瞳が目に焼き付いて離れませんねー。そして彼女は顔の前で手の平を広げるとスプーンに近づけて、手の平に乗るよう言いました。しかし彼女のあまりの巨大さに尻込みしたのか、なかなか先頭が降りてくれませんで。私は降りたかったのですが、先にスプーンに乗ったお陰で降りるときは最後尾のほうでした。すると彼女はニヤニヤと小悪魔みたいに笑いながらスプーンを口元に近づけていったのです。彼女の鼻息が暴風のようになって周りの空気をかき回し、見たこともない大きさの唇に周りはどよめき立っていまして、中には怖いのか叫びだす者もおりましたが、私は夢にまで見たカナエちゃんの唇までもが間近に見れて歓声の叫びをあげていました。彼女の唇のしわが特に美しい。私はまたも人々を押しのけて前に出ました。巨大になったからって怖がるようなにわかファンは引っ込んでろって感じでね。しかし彼女は困ったような顔をして、「そんなに怖がられたら悲しいな。そうだ、キスしようよ」そう言うと、真っ白な歯を見せてスプーンの先端を歯で軽く噛みました。揺れないように固定しようと思ったんですかね。ちょっとした建物のような大きさの歯並びの良い美しい真っ白な歯が我々の眼前に突き立てられて、足元がぐらぐらと揺れて更に悲鳴が上がりましたが、私は思わず駆け出していました。続いて唇がゆっくりと降りてきたときには、彼女の唇の前に来ていました。私の周りにはよくイベントで見る彼女のファン数人しかいませんでした。いやー、良かったですよ彼女の唇は。柔らかくて暖かくて。彼女も小さな私たちの存在を感じてくれていたみたいで、唇からスプーンを離すとまた我々を見つめて「ありがとうキミたち。良かったらイベントが終わったら私が管理する街に住まない？」と言ってくれたんです。どうやら法施工前に試験的に住める街があるらしくて、私は迷わず志願しましたね」

・カナエさんにも本日のイベントについて話を聞いてみた。
「とにかく指にも乗れないくらい小さな人がかわいくて、私を見て怖がっている人たちにイタズラしちゃおうかなって思ってキスしたのは事実です(笑)。でも私はまだマシじゃなかったですか？隣に座ってた妹のカズエなんか街に顔を近づけたら参加者さん達のうち何人かが面白がって「ギャル怪獣だー逃げろー」って言って逃げたのを見てちょっと怒ったみたいで、「区画整理しまーす。逃げ遅れた人は容赦なく潰しますからねー」って突然言い始めて指先で逃げ惑う人たちを追い回しながら指で区画を作って閉じ込めて、腹いせに周りの建物を指で崩したり、高層マンションを手で握り潰したり大暴れでした。舌で舐め取ろうとしているのを見たときは流石に止めて悪ふざけをした参加者さん達を助け出しましたけどね。本当に食べちゃいそうだったので。女の子を怪獣扱いした彼らが悪いんですけど、かわいそうに、彼らズボンを濡らしてわんわん泣いてました。そういえば500倍の訓練の時にカズエったら街に覆いかぶさるようにして転んじゃって、そのときクローン達が何人か口の中に入っちゃって食べちゃったことがあったんですけど、カズエはショックを受けるかと思ったら「意外に美味しいのね」って言ったことがあったんです。この時に何かに目覚めちゃったのかもしれません。
　あ、話がそれましたね。実は参加者さん全員とキスをしたかったんですけど、まだ私の街の住人ではないので自制しました(笑)。参加者さんたちが撮影した動画をあとからネットで見たんですけど、1000倍の私って彼らから見るともの凄く巨大なんですねー。最初に降ろした指の指紋とかものすごくよく見えて、岩みたいでちょっと恥ずかしかったです。あと、私が彼らを見ていときは瞬きの音が響くんですね。バチーンって大きい音で。知らなかったです。私の口が彼らに迫る映像では私の息が歯の間から轟音を立てるし、息の湿気でレンズが曇ったり、人が吹き飛ばされないようにしゃがんだり、歯でスプーンを噛んだところでは何人か転ばせちゃったみたいでゴメンなさい。私は今日はすごく楽しかったですよ。だって私の何気ない行動でも小さな人々を困らせたり翻弄してしまって、ああ、私これから小さな人々の絶対的な支配者になるんだなって思うとこみ上げてくるものがあるんです。私なんだかすごく身体が火照っちゃうほど興奮しちゃって、今夜は寝れないかも。
　確かに管理官って怖いかも。でも言うことを聞けば酷いことはしませんから安心してくださいね(笑)」

スプーンに乗せた参加者を口元に運ぶカナエさん。数百人単位を一口で食べてしまいそうな大きさの口に参加者からは悲鳴が上がった。